



今月の一枚



ジンスカカンに笑顔
 (Kさん撮影*1)

交流会の記事は最終面に掲載しています。

*1撮影したKさんはこの日、自前の一眼レフカメラで終始撮影していました。

障がい者の住まいについて倶知安町長と懇談（町長室の日）



6月23日は倶知安町長が毎月町政について町民と話し合う「町長室の日」でした。当法人も参加している「羊蹄山ろく自立支援協議会 住居支援・私の住む場所部会」は、町長室を訪ね、「グループホームの住居や障がい者が自立する時のアパート探して、低家賃の物件が見つからない」という地価高騰のこの地域ならではの問題について町長の考えをお聞きしました。

西江栄二町長は「今高齢者の独居が増えていて、空き家“予備軍”がある。この人たちに働きかけて、当面は高齢者住宅に移住してもらい、空いた家を障がい者や住居を求めている若い人に住んでもらうということを考えている。来年度にはそれを形にしていければ」と思いを語っていただきました。

予定時間を超えても熱い意見交換が続き、町長から「いつか町長の日以外でじっくりと時間をとって話し合える機会がほしい。自立支援協議会にも顔を出したい」と嬉しい言葉が・・・。

住居の課題は行政も含めて総合的に取り組んでいかなくてはならないと思いますが、町長の前向きな意見に私たちはとても心強く感じました。（こばやし・かわさき）



7月8日「みんなで学ぼう夏の拡大版 地域・職場での心の健康を考えよう」を開催しました。今年は俱知安保健所所長の人見嘉哲先生を迎えて、公衆衛生のお話をさせていただきました。

公衆衛生というとどんな活動をしているのか、言葉を聞いたこともないという方もいらっしゃるかと思います。しかし保健所を中心に活動している公衆衛生は、わたしたち国民にとって欠かすことのできない存在だということです。

わずか100年前まで、日本人の平均寿命は50歳前後でした。それが健康の啓発活動や感染症の予防活動などによる公衆衛生が発達したことで、現在は男女とも80代(2015年)まで寿命が延びたのです。この公衆衛生や保健所の制度は日本独自のもので、世界各国からこの制度を学びに日本へ来るとのこと。50人近く集まった参加者は、人見先生の時にユーモアを交えた話に興味深く聴いていました。

後半は座長の土田正一郎先生の作品「脱皮」を鑑賞後、二人の座談会をおこないました。日本が公衆衛生に取り組んできた実績が世界に誇れるすごいことであり、私たちはもっと自慢に思っよといひ話ほまさに「目からウロコ」でした。最後に人見先生は「今後できれば後継者を一人につき一人育ててほしい」と話して締めくくりました。

来場された方、人見先生、ありがとうございました。

課題と収穫と～北海道チャンピオンズカップ奮闘記



試合の合間にポジションを確認するチーム一同。次戦に向け緊張感がただよう。



今大会は史上最多の15チームが参加。帯広や網走からの参加もあった。

6月24日、K.S.C.JUNTOSはソーシャルフットボールの北海道No.1を決める「北海道チャンピオンズカップ」に出場しました。

結果は以下の通り残念な成績に終わりました。今回こそ初勝利を・・・と選手は期待を胸に奮闘しましたが、チャンスを得点につなぐことができず、守備面でも課題を残しました。

選手は悔しさでいっぱいでした。主将は涙を隠しませんでした。もっと自分たちのサッカーを表現したい。そういった思いを持ったことが今大会に出場した収穫だったのではないのでしょうか。

決勝はH・Sアリアンサ(札幌)とこりりカ(札幌)の対戦で、点を取ったら取り返す白熱した展開でした。後半終了時3-3で決着つかず、PK戦の結果アリアンサが初優勝を遂げました*2。

発足して1年、まだまだ駆け出しのチームです。夢は大きく、そのためにも初勝利を！ その思いで再び練習に汗を流しています。

※グループリーグは1試合につき8分(ハーフタイムなし)

第1試合	ふおれすと(小樽)	0-2	●	
第2試合	ライフテングー札幌	0-1	●	0勝4敗
第3試合	HSアリアンサ(札幌)	0-4	●	(リーグ5位)
第4試合	アユターレK(帯広)	0-2	●	

50号記念 その時を伝えた通信ともに

通信ともにには、今回で50号を迎えました。

2008年に創刊し、足かけ9年で記念号を迎えることができました。みなさまのご支援とご協力に感謝いたします。

ここでは当法人の歴史を懐かしの通信ともにで振り返っていきます。(かわさき)

第1号の紙面。片面A4サイズだった



2008年7月 第1号



設立記念講演会 (9月6日)

この年の3月3日にNPO法人ともにを設立。その告知と「設立記念講演会」のお知らせを掲載しました。記念講演会は「浦河べてるの家」の精神保健福祉士、伊藤知之さんを迎え、当事者の自助活動から見たことをたっぷりと語っていただきました。

ご挨拶が大変速くなりました。NPO法人 ともに です。

これまで、「ワークショップようてい」の運営は俱知安地域精神障害者家族会が行っていましたが、「障害者自立支援法」により法人化が必要となり、NPO法人 ともに が設立されました。2008年5月第1回通常総会を行い、NPO法人 ともに の活動がスタートしました。ご挨拶が大変速くなりましたが、今後ともご支援ご協力よろしく願っています。

お互いに「大事にする」という絆で 理事長 土田正一郎



私は、日常業務では精神科医をしています。その業務の中で患者さんの家族や周囲の人から、「こんなときはどうすればいいですか」という質問を受けることがよくあります。質問した方は、きっと切羽詰って尋ねたことなのでしょうが、私はこの質問を受けるのが苦手です。ある文脈の中で作られた状況を第三者が理解することは困難であり、仮に理解が可能であったとしても、期一刻と変化する時の流れに応じて、その程度適切な助言をすることなど不可能なことです。

精神科医になりたての頃は、それでも私後にも立たない助言をしていたように思います。でも最近では「相手のことを大事にして行動してください。貴方のその思いは必ず相手に伝わります。」と答えています。誰かに大事にされてみて、初めて誰かを大事にすることが出来るのです。私は、お互いに「大事にする」という絆で繋がった仲間たち、そういうNPO法人 ともに を目指します。

移転後2度目の夏を迎えました

地域活動支援センター「ワークショップようてい」
 ・開設日 月曜から金曜の毎日(祝日除く)
 ・時間 午前9時30分から午後3時30分
 ・昼食希望される方は実費で提供
 ※ 見学大歓迎です。お気軽にお立ち寄りください。

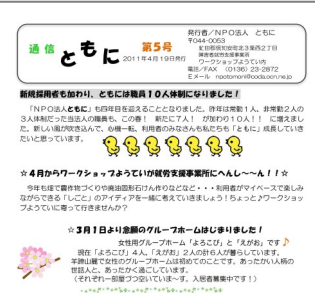


設立記念講演会のご案内

日時：2008年9月6日(土) 13:30開演 14:00閉演
 会場：後志労働福祉センター(俱知安町南1条東1丁目)大会議室
 講師：「浦河べてるの家」伊藤知之氏
 精神保健福祉士で精神障害当事者でもある伊藤氏に、「障害当事者の自助の援助、べてるの活動が大事にできたこと」など、当事者も地域も元気になる講演をしていただく予定です

みなさん誘いあって来てくださいますね、お待ちしています！
 無料

2011年4月 第5号



3月にグループホーム「よろこび」と「えがお」が誕生、4月にはワークショップようていが就労支援事業所に変わるなど、大きな変化のあった2011年春。3人の職員で始まった当法人は、この年新規職員が7人加わり、合計10人体制になりました。当時はA4表裏で表面が法人報告、裏面はワークショップようていとグループホームの記事という形でした。

2013年8月 第10号



のちに「ともに創る地域の和 わくわく」になる建物の建設に向けた国から3,000万円交付金が決まったこの号から4ページ化、A3で折り込む現在の形ができました。前年にブログ、この年に公式ホームページが誕生し、広報体制も充実した頃です。この年までは不定期刊でした。年に3回の発行目標だったのが、2回しか発行できない年もありました。

2014年5月 第12号 毎月発行へ



この号から月1回発行となり、「今月の一枚」、「読ん得」などのコーナーが誕生。次号の第13号からは俱知安厚生病院の土田正一郎先生によるコラム「診察室で考えていること(仮)」の連載がスタートしました。月刊化が決まったものの「本当にできるのかな？」という不安を感じ、実際にこの号を出すまでは苦勞の連続でした。でもみなさんの協力があって予定通り発行することができ、それが現在まで毎月続けて出せているということに自分でも驚いています。

はみ出し豆知識
 ここで紹介した過去の通信ともにには、当法人のホームページからダウンロードできます。アドレスはhttp://www.npo-tomoni.com/download.htm

2015年3月 第22号

「ともに創る地域の和 わっくわく」が無事引き渡しを受け、新事業所が始動しました。前月の内覧会では120人もの方が訪れ、関心がとても高かったことをこの号では報じています。5月には完成祝賀会を開催し、40人以上の方と盛大に祝いました。



完成祝賀会（5月23日）

わっくわく事業 新事業所移転先および電話番号変更のご案内

昨年秋に工事が始まった「ともに創る地域の和 わっくわく」が2月27日無事引き渡されました。計画段階を越え約2年半あまりの難産でしたが、この間多くの方々のご理解とご協力によってこの日を迎えることが出来ました。みなさまに感謝申し上げます。

ワークショップより3月23日から、グループホームは4月1日からそれぞれ新事業所で開始します。新しい連絡先は以下の通りです。今後ともご協力をよろしくお願いいたします。

新事業所の連絡先
 住所 〒044-0053 虻田町期安町北3条西2丁目1（旧事務所となり）
 電話 (0136) 55-5828
 ファックス (0136) 55-5829
 Eメール(代表) info@npo-tomonoki.jp

2015年11月 第30号

10月15日、コミュニティカフェわっくわくがオープン。自分で淹れるコーヒーが売りですが、ワンコインランチが大人気に。評判を呼び、今では町外の方や海外のスキー客も訪れるようになりました。

この号では開店直前に北海道新聞に取り上げられたことと、開店直後の店内の様子などを伝えました。この前後の号でみずほ福祉助成財団さま、前川報恩会さまほか、さまざまな助成金をいただいたことを紹介しました。改めてみなさまに感謝申し上げます。



2016年7月 第38号

ソーシャルフットボールクラブ「K.S.C. Juntos」が発足。スポーツという新しいアプローチで活動を広げました。10月には「ソーシャルフットボールともにカップ」を開催。町内外から8チームが参加し、熱戦を繰り広げました。



ともにカップ（10月30日）

ともにのアットザ「K.S.C. Juntos(ジュントス)」発足!

5月2日に開催された「みんなで学ぼう夏の部大祭」。そこで「ともに」でフットサルチームをつくらう!と盛り上がり、精神障害者フットサルクラブ、ついに発足しました。会員は土曜一泊です。名前の「K.S.C.」は「Kashira Sports Club」の略称です。「Juntos」はスペイン語で「ともに」を意味しています。ともにスポーツを楽しみ、ともに生きていくことを目指しています。

7月1日に開催された「みんなで学ぼう夏の部大祭」でも「ともに」のチームは活躍しました。式では「発足宣言書」も発表し、大きな盛り上がりを見せました。行かないけれど応援したいという声も聞かれました。練習ではボールを蹴る練習もしていました。練習は毎月毎月開催される予定です。

今月23日にはお祭りに参加予定です。発足してから初めての機会ということで、メンバーもとてもワクワクしています。みなさんの応援を待っています。(入会費)はわっくわく事務局までお問い合わせください。

お問い合わせ
 1. 発足宣言書(関心のあるフットサル選手を募集したいという方々のための資料) (0136) 55-5828
 2. 練習場所(わっくわくコミュニティセンター)の予約
 3. 練習用具(ボール、シューズ)の購入
 4. 練習用具(ボール、シューズ)の購入
 5. チーム練習場所はコミュニティセンター

2016年10月 第41号

この年の9月に第1回わっくわく祭りを開催。第1回ながら当日天候に恵まれ、たくさんの方が来られ盛況に終わりました。

紙面は「総力特集」と銘打って、初の見開きページで伝えました。



わっくわく祭り開会式



通信ともにの歴史を駆け足で振り返りました。通信ともににはこれからも法人活動のようすと精神障がいについて、みなさまと学びあえる紙面づくりに努めてまいります。みなさまのご意見・ご感想をお寄せください。よろしくお願いいたします。

ミニコンサート開催します



8月4日金曜日、午後6時からわっくわく食堂でコンサートを開催します。
 かわはらかずさ ふじわかしゅんじ
 出演は川原一紗さんと藤川潤司さん。夫婦でピアノと世界中の民族楽器を使って演奏します。柔らかなカリンバと澄んだ歌声は日本各地にファンを持つとのこと。

入場無料で場内では飲み物類（缶ビール、ドリンクなど）を販売します。夏の暑さを心地よい音楽で忘れてみませんか？ お問い合わせは法人まで。

講演会・研修会活動

京極小学校バリアフリー授業に講師として

もう8年続いている京極小学校の総合的学習の時間にバリアフリーの話をしてほしいと、京極町社協の駒田さん、伊藤さんから依頼を受けました。自分の体（脊髄損傷）のことを説明し、普段の生活の様子をビデオで見てもらい、生活で困っていることを話しました。

みんなで車椅子に乗り合い街のバリアーを探しに行った時は、鋭い観察力でいろんなところにバリアを発見していました。子どもたちからは質問の嵐で、休憩時間には体に興味を持ち触ったり、つついたりして、ほんとに痛くないの？ 触っているけどわからないの？ と触れても感じないことに素直に驚き、疑問に思ったことを聞くことができる。ほんと子供って素直でいいなあと思いました。

後日届いたお礼の手紙には困っている話を受け止めてくれた内容が数多く書かれていました。今回の授業で子供たちが気づいたこと、考えたことを発信して京極町がもっと住みやすく、バリアーのない街になることを期待しています。（ながおか）

障がい者就労支援事業所
ワークショップようてい

夏のイベントに出張販売～製造部

夏はお祭りの季節。ワークショップようてい製造部は積極的に販売活動をしています*5。8月27日（日）はくっちゃん福祉まつりでそれぞれ販売する予定です。ぜひお越しを。



7月1日（土）新緑フェスティバル（西小学校榊山分校）



7月15日（土）ニセコ倉庫邑（ニセコ倉庫群）

障がい者就労支援事業所
ワークショップようてい

多雨に悩まされ～農業部



ごらんの写真は7月上旬に撮影したじゃがいも「キタカムイ」の花です。農業部の畑に今年もじゃがいもの花が咲きほころんでいます。

6月は平年の3.5倍（札幌管区気象台調べ）という記録的な降水量となり、生育の遅れが心配されました。7月に入って気温が一気に上がり、遅れを取り戻すかのように花が咲いています。このほか豆類やかぼちゃ、トマトなども順調に育ってきています。暑い中熱中症に気をつけながら、豊作を目指して作業を続けています。

ジンギスカン交流会

6月24日、わっくわく裏の駐車場にてジンギスカン交流会をおこないました。ともにグループホーム事業を始めたころから、ワークショップようてい利用者とグループホーム入居者の親睦を目的に毎年おこなわれてきました。当日の出席者は大多数がワークショップ利用者と、グループホームは数人でした。

参加者全員でテント設営し、火おこしをし、肉と野菜、おにぎり、つけもの、そして山から採っただけのこがテーブルにならびました。

最後は筆者が音頭をとり、一本締めで終了しました。来年はグループホーム入居者にも大勢参加してもらいたいです。

(ペンネーム：シエクター4398)



この日はくもり空で時おり雨がぱらついていました。ただ昨年は大雨で室内開催でしたので、今年は何んとか外で交流することができたのが幸いでした。

精神科医 土田正一郎の

診察室で
考えて
いること(仮)



その39

回復は後ろ
向きにする

回復を前向きに評価してもいいけれど、ゴールとの距離を測ることになるので、マイナスの評価にしかならないということにある日ふと気付いた。

焦りや苛立ちの種を蒔くのはやめておいたほうがいい。勝手に生えてくるのだから。回復の途中でどこまで来たかを知りたくなったら、後ろを向いて以前の自分と比べてみることを勧めてみる。

あの時できなかったことが今どうなっているか。想像以上に素敵なものを見ることになるだろう。それが回復の証である。

ともに顧問(自称)

各事業報告～6月末現在

- ◆障がい者就労支援事業所 ワークショップようてい
契約/移行2人、継続B23人 見学/1人 体験/0人
- ◆グループホームよろこび 利用者/21人(定員22人)
見学/0人、体験/0人
- ◆法人会員 正会員20人、賛助会員 団体2 個人89人
- ◆寄付物品 牛乳パック 未使用記念切手
- ◆今年度寄付金 のべ8人 140,000円

編集後記

初の6ページ版はいかがでしたか？私が通信ともへの編集に関わったのが第2号、2010年春のことです。7年たち法人規模は拡大し、記事のボリュームも増えています。これからも共感できるような記事づくりを目指していきます。ご意見、情報をお待ちしております。(かわさき)